

日銀短観(2012年6月調査)予測

- (1) 7月2日公表予定の日銀短観(2012年6月調査)では、大企業・製造業の業況判断DIは▲3%ポイントと、前回調査比小幅改善を予想。エコカー補助金により販売台数が増加した自動車や、資源価格の下落により仕入原価が下がった素材業種でDIが上昇する見込み。もともと、円高と欧州・中国向け輸出減少が幅広い業種にマイナス影響を与えたため、改善は小幅。
- (2) 大企業・非製造業の業況判断DIは+6%ポイントと、前回調査比1%ポイントの改善と予想。震災からの復興需要が増加した建設関連や、自動車販売が好調な小売、ガソリン価格の下落を受けた運輸などでDIが上昇する見込み。
- (3) 先行き(9月)は、大企業・製造業で▲4%ポイントと再び悪化する見込み。エコカー補助金の払底による自動車販売の減少や海外景気の先行き不透明感が下押しに作用。非製造業では、+6%ポイントと横ばいを予想。復興本格化により建設を中心にDIが改善する一方、自動車販売の減少が小売に対する下押し圧力となる見通し。

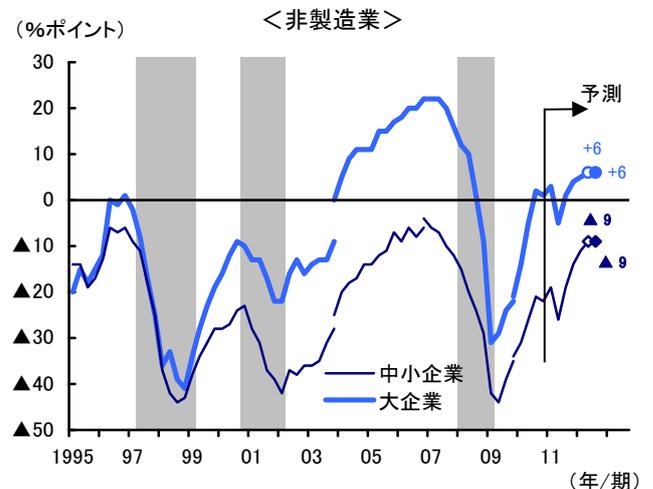
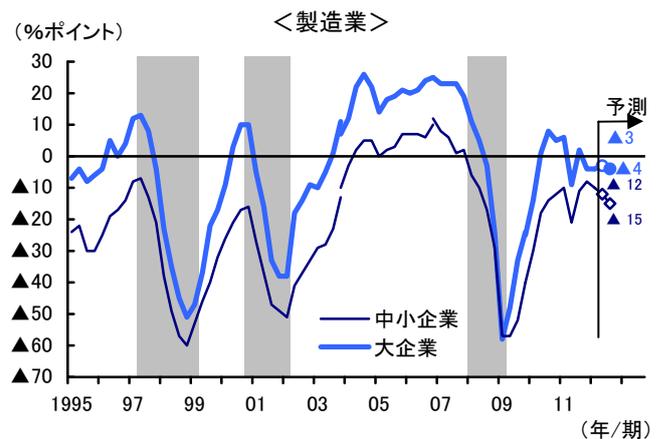
(図表1)業況判断DI(「良い」-「悪い」)

(%ポイント)

		(実績)		(当社予測)	
		2011年 12月	2012年 3月	2012年 6月	先行き
大企業	製造業	▲4	▲4	▲3	▲4
	非製造業	4	5	6	6
	全産業	0	0	1	1
中堅企業	製造業	▲3	▲7	▲8	▲10
	非製造業	▲4	▲1	0	0
	全産業	▲3	▲3	▲3	▲4
中小企業	製造業	▲8	▲10	▲12	▲15
	非製造業	▲14	▲11	▲9	▲9
	全産業	▲12	▲10	▲10	▲11
全規模	製造業	▲5	▲7	▲9	▲11
	非製造業	▲7	▲5	▲4	▲4
	全産業	▲7	▲6	▲6	▲7

(資料)日本銀行「短期経済観測調査」などを基に日本総研作成

(図表2)業況判断DIの推移



(資料)日本銀行「短期経済観測調査」などを基に日本総研作成
(注1) ○、◇印は今回予測値。塗りつぶしは先行き(9月)予測値。
(注2)シャド一部は景気後退期を表す。

- (4) 2012年度の設備投資計画（土地投資額を含み、ソフトウェア投資額を除く）は、全規模・全産業ベースで前年度比+1.5%と、前回調査対比+2.5%の上方修正と予想。
- (5) 内訳をみると、大企業・製造業が前年度比+5.3%、大企業・非製造業が同+1.5%といずれもプラスを予想。震災の復興需要本格化が、設備投資を押し上げる見込み。もともと、大企業・製造業では、円高と海外経済の先行き不透明感を背景に設備投資スタンスが慎重化しているため、前回調査からの上方修正は+0.4%と例年対比低めにとどまると予想。

(図表3)設備投資計画
(土地投資額を含みソフトウェア投資額を除く、前年度比) (%)

		(実績) 2012年3月		(当社予測) 2012年6月			
		2011年度 (実績見込)	2012年度 (計画)	2011年度 (実績)	<修正率>	2012年度 (計画)	<修正率>
大企業	製造業	2.7	3.6	1.5	<▲ 1.2>	5.3	< 0.4>
	非製造業	0.2	▲ 2.0	▲ 1.0	<▲ 1.2>	1.5	< 2.2>
	全産業	1.1	0.0	▲ 0.2	<▲ 1.2>	2.8	< 1.6>
中堅企業	製造業	21.1	4.0	21.0	<▲ 0.0>	8.5	< 4.3>
	非製造業	2.1	3.0	1.5	<▲ 0.0>	8.5	< 4.3>
	全産業	9.0	3.4	8.6	<▲ 0.4>	7.0	< 3.1>
中小企業	製造業	5.4	▲ 18.8	6.0	< 0.6>	▲ 16.5	< 3.4>
	非製造業	▲ 15.7	▲ 9.1	▲ 10.0	< 6.8>	▲ 7.0	< 9.3>
	全産業	▲ 8.5	▲ 12.9	▲ 4.5	< 4.3>	▲ 10.6	< 7.1>
全規模	製造業	5.9	0.4	5.1	<▲ 0.7>	2.6	< 1.4>
	非製造業	▲ 1.9	▲ 2.2	▲ 2.0	<▲ 0.1>	1.0	< 3.1>
	全産業	0.8	▲ 1.3	0.4	<▲ 0.3>	1.5	< 2.5>

(資料)日本銀行「短期経済観測調査」などを基に日本総研作成